

南相馬市内遺跡発掘調査報告書 9

—平成24年度試掘調査・発掘調査報告—

- 桜井 D 遺跡 (6次調査)
- 桜井 D 遺跡 (7次調査)
- 桜井 D 遺跡 (8次調査)
- 桜井 D 遺跡 (10次調査)
- 桜井 B 遺跡 (5次調査)
- 長野南原遺跡 (2次調査)
- 長野南原遺跡 (3次調査)
- 野馬土手 (大町地区)
- 八郎内遺跡 (2次調査)
- 八郎内遺跡 (3次調査)
- 八郎内遺跡 (4次調査)
- 入竜田遺跡 (2次調査)
- 村上城跡 (2次調査)

平成27年3月
南相馬市教育委員会

南相馬市内遺跡発掘調査報告書 9

—平成24年度試掘調査・発掘調査報告—

桜井D遺跡（6次調査）
桜井D遺跡（7次調査）
桜井D遺跡（8次調査）
桜井D遺跡（10次調査）
桜井B遺跡（5次調査）
長野南原遺跡（2次調査）
長野南原遺跡（3次調査）
野馬土手（大町地区）
八郎内遺跡（2次調査）
八郎内遺跡（3次調査）
八郎内遺跡（4次調査）
入竜田遺跡（2次調査）
村上城跡（2次調査）

平成27年3月
南相馬市教育委員会

序 文

平成23年3月11日、東北から関東地方にかけての広範囲で大規模な地震が発生いたしました。後に東日本大震災と呼ばれることになったこの地震と、地震によって発生した津波は東日本の太平洋沿岸に押し寄せ、家屋などの財産とともに多くの尊い人命を失うことになりました。津波の襲来に端を発した東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故は、福島県をはじめとした広範囲に放射性物質を放出するという世界史上まれに見る大規模災害を引き起こしました。

南相馬市でも地震や津波により多くの家屋が被災し、尊い人命を失いました。放射性物質の拡散では市内の一部が警戒区域、計画的避難区域、特定勸奨地点、緊急時避難準備区域等の避難地域に指定され、自宅への立ち入りが制限される事態となりました。事故後約4年が経過しようとしている現在でも、多くの方々が住み慣れた故郷を離れることを余儀なくされ、南相馬市外や福島県外、そして仮設住宅等での避難生活を送っています。

本書は、東日本大震災の混乱が続く平成24年度に、福島県緊急雇用創出基金の採択を得て実施した埋蔵文化財の調査報告です。埋蔵文化財をはじめとする地域に残る文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の財産です。また、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上や発展、そして地域のアイデンティティー形成の根幹をなすものであります。

これらの埋蔵文化財の調査の成果が文化財の保護や地域研究ため、更には被災され方々の目に触れ、震災を経験した南相馬市の復興の礎として活用されることを祈念します。

終わりに、試掘調査の実施にご協力賜りました地権者の皆様、ならびに関係機関の皆様、加えて震災復旧、復興にご支援、ご尽力頂きました皆様に、心から感謝申し上げます。

平成27年3月

南相馬市教育委員会
教育長 青木紀男

例 言

1. 本書に記載した内容は、平成24年度に南相馬市教育委員会が実施した南相馬市内の埋蔵文化財試掘調査、発掘調査の成果報告である。
2. 試掘調査・発掘調査等にかかる経費は、福島県緊急雇用創出基金の採択を得ている。
3. 発掘調査ならびに報告書刊行は、以下の体制で実施した。
 - ・調査期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日
 - ・整理期間 平成24年4月1日～平成27年3月31日
 - ・調査主体 南相馬市教育委員会

事務局 南相馬市教育委員会文化財課

【平成24年度 調査体制】

教育長	青木紀男	主査	二本松文雄
事務局長	小林総一郎	主任文化財主事	荒淑人
文化財課長	高橋清	文化財主事	佐川久
課長補佐	堀耕平	主事	瓜生祥子(8月1日～)

【平成25年度 整理作業体制】

教育長	青木紀男	主査	佐藤友之
事務局長	小林総一郎	主任文化財主事	川田強
文化財課長	高橋清	主任文化財主事	荒淑人
課長補佐兼文化財係長	堀耕平	主任文化財主事	藤木海
主査	二本松文雄	文化財主事	佐川久

【平成26年度 整理作業体制】

教育長	青木紀男	主査	佐藤友之
事務局長	小林総一郎	主任文化財主事	荒淑人
文化財課長	堀耕平	主任文化財主事	藤木海
文化財係長	川田強	主任文化財主事	佐川久
		文化財主事	岩崎勉

- ・整理補助員 阿部千恵 泉田あずさ 岩崎美和子 岡本ミツ子 加藤恵美子 亀田真由美 小泉達彦 佐藤淑子 渡部定子

8. 発掘調査に際しては、次の機関及び個人から協力を得た。記して感謝の意を申し上げる。
社会福祉法人竹水会 特別養護老人ホーム竹水園・アニマルケアサービス・南相馬市鹿島区地域振興課・村上行政区・福島県厚生農業協同組合連合会鹿島厚生病院
橋本友秀・渡部一夫・木幡正勝・遠藤利直・寺島よしえ・佐藤貴永・門馬広毅・門馬トミコ
9. 発掘調査、報告書作成にあたり、次の方々から指導・助言を得た。記して感謝申し上げる。
文化庁文化財部記念物課・福島県教育委員会・福島県立博物館・兵庫県教育委員会

京都府教育委員会・長野県教育委員会・青森県教育委員会・茨城県教育委員会
富山県教育委員会・さいたま市教育委員会・和歌山県教育委員会・沖縄県教育委員会
高知県教育委員会・福岡県教育委員会・福岡県築上町教育委員会

11. 本報告書に掲載した文章ならびに挿図・写真図版は荒が執筆・作成し、最終的な編集は荒が行った。
12. 調査で得られた資料は、南相馬市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 図中の方位は真北方向を示し、水系レベルは海拔高度を示す。
2. 本文並びに図作成に使用した記号・略号は、以下の内容を示す。
T：トレンチ SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 P：ピット
SX：性格不明遺構 L：基本層位

目 次

序 文	i
例 言	iii
凡 例	iv
目 次	v
挿図目次	vi
写真目次	vi
表 目 次	vi
第Ⅰ章 南相馬市を取り巻く環境		
第1節 遺跡を取り巻く環境		
第 1 項 地理的環境	1
第 2 項 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査に至る経過		
第1節 調査に至る経過		
第 1 項 平成 24 年度試掘調査概要	5
第Ⅲ章 調査成果		
第1節 平成 24 年度試掘調査成果		
第 1 項 桜井 D 遺跡 (6 次調査)	7
第 2 項 桜井 D 遺跡 (7 次調査)	8
第 3 項 桜井 D 遺跡 (8 次調査)	10
第 4 項 桜井 D 遺跡 (10 次調査)	15
第 5 項 桜井 B 遺跡 (5 次調査)	16
第 6 項 長野南原遺跡 (2 次調査)	17
第 7 項 長野南原遺跡 (3 次調査)	18
第 8 項 野馬土手 (大町地区)	19
第 9 項 八郎内遺跡 (2 次調査)	20
第 10 項 八郎内遺跡 (3 次調査)	21
第 11 項 八郎内遺跡 (4 次調査)	22
第 12 項 入竜田遺跡 (2 次調査)	23
第 13 項 村上城跡 (2 次調査)	25

報告書抄録

奥 付

挿 図 目 次

図 1 南相馬市位置図 1	図 17 長野南原遺跡位置図 18
図 2 主要遺跡位置図 3	図 18 調査区位置図 18
図 3 調査遺跡位置図 6	図 19 野馬土手（大町地区）位置図 19
図 4 桜井D遺跡位置図 7	図 20 調査区位置図 19
図 5 調査区位置図 7	図 21 八郎内遺跡位置図 20
図 6 桜井D遺跡位置図 8	図 22 調査区位置図 20
図 7 トレンチ配置図 8	図 23 八郎内遺跡位置図 21
図 8 桜井D遺跡位置図 10	図 24 調査区位置図 21
図 9 トレンチ配置図 11	図 25 八郎内遺跡位置図 22
図 10 8次調査全体図 12	図 26 調査区位置図 22
図 11 桜井D遺跡位置図 15	図 27 入竜田遺跡位置図 23
図 12 調査区位置図 15	図 28 トレンチ配置図 24
図 13 桜井B遺跡位置図 16	図 29 村上城跡位置図 25
図 14 調査区位置図 16	図 30 調査区位置図 25
図 15 長野南原遺跡位置図 17	
図 16 調査区位置図 17	

写 真 目 次

<p>桜井D遺跡（6次調査）</p> <p>写真 1 調査区全景 7</p> <p>写真 2 1 T 調査状況 7</p> <p>桜井D遺跡（7次調査）</p> <p>写真 3 調査着手前 9</p> <p>写真 4 1 T 1号溝跡 9</p> <p>写真 5 2 T 1号鍛冶遺構 9</p> <p>写真 6 1号鍛冶遺構 調査状況 9</p> <p>写真 7 1号鍛冶遺構 調査状況 9</p> <p>写真 8 1号鍛冶遺構 粘土塊 9</p> <p>桜井D遺跡（8次調査）</p> <p>写真 9 調査着手前 14</p> <p>写真 10 1 T 調査状況 14</p> <p>写真 11 調査状況全景 14</p> <p>写真 12 1号竪穴住居跡 調査状況 14</p> <p>写真 13 2号竪穴住居跡 調査状況 14</p> <p>桜井D遺跡（10次調査）</p> <p>写真 14 調査着手前 15</p> <p>写真 15 土層断面 15</p> <p>写真 16 調査状況 15</p> <p>桜井B遺跡（5次調査）</p> <p>写真 17 調査着手前 16</p> <p>写真 18 1 T 調査状況 16</p> <p>写真 19 作業風景 16</p> <p>長野南原遺跡（2次調査）</p> <p>写真 20 1 T 調査状況 17</p> <p>写真 21 作業風景 17</p> <p>長野南原遺跡（3次調査）</p> <p>写真 22 重機掘削状況 18</p> <p>写真 23 2 T 調査状況 18</p> <p>写真 24 1 T 調査状況 18</p>	<p>野馬土手（大町地区）</p> <p>写真 25 調査着手前 19</p> <p>写真 26 調査状況 19</p> <p>写真 27 土層断面 19</p> <p>八郎内遺跡（2次調査）</p> <p>写真 28 調査着手前 20</p> <p>写真 29 1 T 調査状況 20</p> <p>写真 30 2 T 調査状況 20</p> <p>八郎内遺跡（3次調査）</p> <p>写真 31 調査着手前 21</p> <p>写真 32 1 T 調査状況 21</p> <p>写真 33 2 T 調査状況 21</p> <p>八郎内遺跡（4次調査）</p> <p>写真 34 調査着手前 22</p> <p>写真 35 1 T 調査状況 22</p> <p>写真 36 1 T 土層断面 22</p> <p>入竜田遺跡（2次調査）</p> <p>写真 37 調査着手前 23</p> <p>写真 38 伐採状況 23</p> <p>写真 39 7 T 調査状況 23</p> <p>写真 40 8 T 調査状況 23</p> <p>村上城跡（2次調査）</p> <p>写真 41 村上城跡遠景 26</p> <p>写真 42 調査区遠景 26</p> <p>写真 43 1 T 調査状況 26</p> <p>写真 44 2 T 調査状況 26</p> <p>写真 45 4 T 調査状況 26</p> <p>写真 46 作業風景 26</p> <p>写真 47 作業風景 26</p>
--	--

表 目 次

表 1 南相馬市主要遺跡一覧表	4
---------------------------	---

第 I 章 南相馬市を取り巻く環境

第 1 節 遺跡を取り巻く環境

第 1 項 地理的環境

福島県南相馬市は、福島県太平洋岸の中央部やや北寄りに位置する。行政境としては、北側は相馬市、南側は双葉郡浪江町、西側は相馬郡飯館村と接する。

浜通り地方の地質は、阿武隈高地東縁部と浜通り低地帯、双葉断層（岩沼－久之浜構造線）により明瞭に区分される。

市内の地形を見ると、西部域に南北方向に連なる阿武隈高地が縦走り、そこから太平洋に向かって派生する低丘陵と丘陵間に開析された沖積平野で構成され、阿武隈高地にかかる西側の丘陵の標高は 100～150m を測り、海岸部に近い市内中心付近では標高 50～60m 前後、海岸部では 20～30m となる。



図 1 南相馬市位置図

第 2 項 歴史的環境

南相馬市内に所在する旧石器時代の遺跡としては、大谷地遺跡 (1)・畦原 A 遺跡 (2)・畦原 C 遺跡 (3)・熊下遺跡 (4)・袖原 A 遺跡 (5)・陣ヶ崎 A 遺跡 (6)・南町遺跡 (7)・橋本町 A 遺跡 (8)・橋本町 B 遺跡 (9)・桜井遺跡 (10)、荻原遺跡 (11) の 11 遺跡があり、後期旧石器時代のナイフ形石器や彫刻刀型石器を出土している。

縄文時代の遺跡では、宮後 A 遺跡 (12)・宮後 B 遺跡 (13) から大木 7a～10 式、八幡林遺跡 (14) では早期から晩期までの土器が出土する。八重米坂 A 遺跡 (15)・羽山 B 遺跡 (16)・畦原 F 遺跡 (17) では早期から前期の遺構・遺物が確認されており、赤沼遺跡 (18)・犬這遺跡 (19) でも前期の土器が出土している。中期では阿武隈高地裾部にある前田遺跡 (20) や、新田川北岸の台地上にある高松遺跡 (21) では大木 7b～10 式、植松 A 遺跡 (22) では大木 10 式期の住居跡が調査されている。太田川流域の上ノ内遺跡 (23)・町川原遺跡 (24) からは綱取式を出土し、片倉の羽山遺跡 (25) では晩期の大洞 C1～A 式、高見町 A 遺跡 (26) では晩期中葉の土器と石囲炉をもつ住居跡が調査されている。宮田貝塚 (27)・加賀後貝塚 (28)、片草貝塚 (29) は内陸部に位置する貝塚をともなう前期前半の集落である。前期後半以降には海岸部にある浦尻貝塚 (30) や角部内南台貝塚 (31) が代表的な貝塚として知られている。

弥生時代としては天神沢遺跡 (32) や桜井遺跡 (33) が著名であるが、近年では桜井古墳 (34) や川内迫 B 遺跡群 F 地点 (35) では中期中葉の柵形囲式が出土し、高見町 A 遺跡からは終末期の

十王台式が出土している。

古墳時代では、古墳時代前期に新田川南岸の河岸段丘上に桜井古墳が築造され、周辺の古墳と共に桜井古墳群上渋佐支群(36)・同高見町支群(37)を構成する。真野川流域の柚原古墳群(38)では周溝内からは塩釜式土器が出土し、高見町A遺跡・桜井B遺跡(39)・東広畑B遺跡(40)でも塩釜式土器が出土している。前方後円墳である上ノ内前田古墳(41)は中期の可能性があり、真野古墳群(42)・横手古墳群(43)は円筒埴輪を伴うことから、その造営開始は中期末まで遡る可能性がある。この時期の集落は前屋敷遺跡(44)で南小泉式土器を出土する竪穴住居が調査されている。後期になると桜井古墳群高見町支群・真野古墳群・横手古墳群などで本格的に古墳群の造営が開始される。真野古墳群は100基を超える東北地方を代表する後期群集墳である。

後期の集落としては大六天遺跡(45)・迎畑遺跡(46)・地藏堂B遺跡(47)、片草古墳群一里段支群(48)・中村平遺跡(49)で後期から終末期の土器が出土する。終末期の横穴墓のうち大窪横穴墓群(50)・羽山横穴墓群(51)、浪岩横穴墓群(52)は玄室内部に装飾壁画が見られ、真野川流域の中谷地横穴墓群は(53)複室構造の玄室を採用している。

奈良・平安時代の遺跡では行方郡家とされる泉官衙遺跡(泉廃寺跡)(54)があり、郡庁院・正倉院・館院などが確認されている。横手廃寺跡(55)・真野古城跡(56)・植松廃寺跡(57)・入道迫瓦窯跡(58)、京塚沢瓦窯跡(59)・犬這瓦窯跡(60)などは瓦が出土する遺跡であり、寺院や瓦を焼成した遺跡と考えられる。市内の低丘陵では製鉄に関連した遺跡が多数確認されており、金沢製鉄遺跡群(61)、蛭沢遺跡(62)・川内迫B遺跡群・出口遺跡(63)・大塚遺跡(64)・横大道遺跡・館腰遺跡などで調査が進展している。集落遺跡では広畑遺跡(65)を始めとして市内各地で確認されているが、集落の具体的な構造を知るまでには至っていない。広畑遺跡からは「寺」「厨」などの墨書土器とともに灰釉陶器が出土し、隣接する泉官衙遺跡との関連が示唆される。大六天遺跡から出土した「小毅殿千之」と刻書された須恵器は行方軍団との関わりが見られる。町川原遺跡でも墨書土器が出土しているが、広畑遺跡のような公的機関の施設名を記したものは見られず、異なった性格をもつ集落であると考えられる。

主な中世の遺跡としては城館跡が挙げられ、下総国から下向した相馬氏の最初の居城となる別所館跡(66 現太田神社)や牛越城跡(67)は、相馬氏下向以前の城館跡として良く知られている。小高城跡(68 現小高神社)は相馬氏の居城として機能した中世城館である。本城跡は嘉暦元年から慶長十六年に相馬利胤が中村城を築城するまでの約290年間重要な役割を占めた。その他では泉平館跡(69)・泉館跡(70)・下北高平館跡(71)で調査が行われている。

近世の遺構は、寛文六年以降に築かれた野馬土手と、その出入口となる木戸跡や相馬氏の居城として再整備された牛越城跡がある。野馬土手は、雲雀ヶ原扇状地を囲むように、東西約10km×南北約2.6kmの範囲に築かれており、土手内外の出入り口となった羽山岳の木戸跡(72)は南相馬市指定史跡に指定され良好な形で保存されている。

近世後半から近代にかけては中村藩の大規模なたたらである馬場鉄山(73)や正福寺跡(74)、法幢寺跡(75)などで近世墓域の調査が行われている。



图2 主要遺跡位置図

第2項 歴史的環境

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文	41	上ノ内前田古墳	古墳	古墳
2	畦原A遺跡	散布地	旧石器	42	真野古墳群	古墳	古墳
3	畦原C遺跡	散布地	旧石器	43	横手古墳群	古墳	古墳
4	熊下遺跡	散布地	旧石器	44	前屋敷遺跡	集落・散布地	縄文～古墳
5	袖原A遺跡	散布地	旧石器	45	大六天遺跡	集落・散布地	古墳～平安
6	陣ヶ崎A遺跡	散布地	旧石器	46	迎畑遺跡	集落・散布地	古墳
7	南町遺跡	散布地	旧石器	47	地藏堂B遺跡	集落・散布地	古墳
8	橋本町A遺跡	散布地	旧石器	48	片草古墳群 一里段支群	古墳・集落	古墳～平安
9	橋本町B遺跡	散布地	旧石器	49	中村平遺跡	集落・散布地	古墳
10	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生 古墳・奈良・平安	50	大窪横穴墓群	横穴墓	古墳
11	荻原遺跡	散布地・製鉄跡	旧石器・奈良・平安	51	羽山横穴墓群	横穴墓	古墳
12	宮後A遺跡	集落・散布地	縄文	52	浪岩横穴墓群	横穴墓	古墳
13	宮後B遺跡	集落・散布地	縄文	53	中谷地横穴墓群	横穴墓	古墳
14	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文	54	泉官衙遺跡	官衙	奈良・平安
15	八重米坂A遺跡	集落・散布地	縄文	55	横手廃寺跡	寺院	平安
16	羽山B遺跡	集落・散布地	縄文	56	真野古城跡	城館	不明
17	畦原F遺跡	住落・散布地	縄文	57	植松廃寺跡	寺院	奈良・平安
18	赤沼遺跡	集落・散布地	縄文	58	入道廻瓦窯跡	窯跡	奈良・平安
19	犬這遺跡	散布地	縄文	59	京塚沢瓦窯跡	窯跡・製鉄	奈良・平安
20	前田遺跡	散布地	縄文	60	金沢製鉄遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
21	高松遺跡	散布地	縄文	61	蛭沢遺跡	製鉄	奈良・平安
22	植松A遺跡	集落・散布地	縄文	62	川内廻B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
23	上ノ内遺跡	散布地	縄文	63	出口遺跡	製鉄	平安
24	町川原遺跡	集落・散布地	縄文	64	大塚遺跡	製鉄	平安
25	羽山遺跡	集落・散布地	縄文	65	広畑遺跡	集落・散布地	奈良・平安
26	高見町A遺跡	集落・散布地	縄文～平安	66	別所館跡	城館	中世
27	宮田貝塚	貝塚・散布地	縄文	67	牛越城跡	城館	中世
28	加賀後貝塚	貝塚・散布地	縄文	68	小高城跡	城館	中世
29	片草貝塚	貝塚・散布地	縄文	69	泉平館跡	城館・散布地	中世
30	浦尻貝塚	貝塚・散布地	縄文・平安	70	泉館跡	城館	中世
31	角部内南台貝塚	貝塚・散布地	縄文	71	下北高平館跡	城館	中世
32	天神沢遺跡	散布地	弥生	72	羽山岳の木戸跡	その他	近世
33	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生・ 古墳・奈良・平安	73	馬場鉄山	製鉄	近世
34	桜井古墳	古墳	古墳	74	正福寺跡	寺院	近世
35	川内廻B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安	75	法幢寺跡	寺院・集落	奈良・平安・近世
36	桜井古墳群 上渋佐支群	古墳・散布地	縄文～平安				
37	桜井古墳群 高見町支群	古墳・集落	縄文～古墳				
38	袖原古墳群	古墳	古墳				
39	桜井B遺跡	集落・散布地	弥生・平安				
40	東広畑遺跡	集落・散布地	弥生～平安				

表1 南相馬市主要遺跡一覧表

第Ⅱ章 調査に至る経過

第1節 調査に至る経過

第1項 平成24年度試掘調査概要

桜井D遺跡と桜井B遺跡は、南相馬市内中央部を流れる新田川の南岸に発達した河岸段丘の縁辺に所在する集落である。これまでの調査で石包丁などの弥生時代の磨製石器や、古墳時代、平安時代の集落が確認されている。平成24年度には、東日本大震災で被災した住民の個人住宅建設や、市内で不足する住宅事情の解消のための集合住宅の建設が増加し、桜井D遺跡と桜井B遺跡の2遺跡5地点で試掘調査が行われた。

桜井D遺跡では、個人住宅建設に対する6次調査・7次調査、集合住宅建設に対する8次調査・10次調査を実施している。いずれも、建設計画段階で試掘調査の実施について（依頼）の提出を受け、順次試掘調査に着手した。桜井B遺跡も同様に、集合住宅建設に対して、試掘調査の実施について（依頼）の提出を受けて、平成24年9月に試掘調査に着手した。

長野南原遺跡では、老人介護施設の増床計画ならびに職員宿舎建設に対して2回の試掘調査を実施した。本遺跡は、新田川南岸に開析された沖積地のなかに残された微高地上に立地する平安時代の集落である。本年度は2地点の試掘調査実施について（依頼）が提出され、平成24年4月と6月に試掘調査を行った。

野馬土手は、寛文年間に相馬野馬追のために保護された野馬が、飛散するのを防止する目的で築かれた土手である。本年度は、野馬土手の北辺中央部分の大町地内を通過すると想定される部分で集合住宅建設の計画があり、平成24年8月に試掘調査を実施した。

八郎内遺跡は、南相馬市鹿島区の市街地に所在する、古墳時代から平安時代にかけての時期の遺物散布地である。平成24年度の試掘調査は、老人介護施設建設、集会所施設改築、既存建物解体の3地点で実施した。

入竜田遺跡は、阿武隈高地山麓から樹枝状に広がる低丘陵上にある縄文時代と弥生時代の遺物散布地である。平成24年度には、遺跡の所在する丘陵の約100haが（仮）深野工業団地造成事業の計画地とされた。南相馬市教育委員会では、この大規模開発計画に対して入竜田遺跡については、試掘調査実施の条件が整った地点から順次試掘調査に着手した。

村上城跡は、当時の領主相馬義胤が慶長元年（1596年）に、小高城からの移城先として普請した城である。実際には築城直前に建築部材等が不審火により焼失したため、不吉な城として築城は断念され、城館としては機能しないうちに廃城となっている。平成24年度に実施した試掘調査は、東日本大震災により被害を受けた墓地の復旧・改修にともなうもので、平成25年3月から調査に着手した。



図3 調査遺跡位置図

第三章 調査成果

第1節 平成24年度試掘調査成果

第1項 桜井D遺跡（6次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上渋佐字原畑
3. 調査期間 平成24年4月16日～4月17日
4. 調査対象面積 1,000 m²
5. 調査面積 40 m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 長さ10m×幅2mの南北方向のトレンチである。厚さ20cmの表土の直下に黄色ソフトロームの基盤層が確認されたが攪乱が多く、遺構・遺物は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、遺構・遺物は確認されなかったことから、発掘調査の必要はない。



図4 桜井D遺跡位置図



図5 調査区位置図



写真1 調査区全景



写真2 1 T 調査状況

第2項 桜井D遺跡（7次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上渋佐字原畑
3. 調査期間 平成24年5月28日～6月4日
4. 調査対象面積 434 m²
5. 調査面積 92 m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 1～3 T：調査対象地の南から北に向かって順に設定した調査区である。厚さ約20cmの表土の下層に、黄色ソフトロームの基盤層がある。

4・5 T：調査対象地の北側に設けた調査区である。厚さ約20cmの表土を除去し、基盤層となる黄色ソフトローム層を確認した時点で鍛冶遺構・溝を確認した。

1号鍛冶遺構：4 Tおよび拡張区で確認した。遺構は東西約2.1m×南北約2.4m以上を計測する長方形で、北辺コーナーに直径約20cmの円形の炉が付く。北東部分には一辺50cmの方形の掘り込みがあり、この内部に鉄滓・炭化物や白色粘土ブロックが互層堆積している。

遺構内の堆積土は最大で6層に細分され、多量の鉄滓を含む。遺構内堆積土はすべて取り上げて水洗作業の結果、鍛造剥片・粒状滓が出土したことから、本遺構が精錬鍛冶に関連するものであることが確認された。

1号溝跡：本溝跡は5 T西端を斜めに横断する溝跡である。調査では溝跡の延長を確認するために6 Tを設け、さらに5 Tと6 Tを接続するための拡張を行い、最終的には約6.5m分を確認した。

溝の上幅は約40cm、下幅は約20cm、深さは約25cmを計測する。断面形は浅い箱型で、内部の堆積土は5層に細分された。いずれもレンズ状の堆積傾向を示した自然堆積土である。

出土遺物：出土した遺物には土師器・鍛冶関連遺物等がある。

土師器は表土からの出土が多く、図化できるものは少ない。1号鍛冶遺構からは鉄滓・鍛造剥片等の精錬鍛冶に関連する遺物が出土した。特に、1号鍛冶遺構内の堆積土約1/3を水洗した結果、鍛造剥片約130g、粒状滓約30gが採取できている。

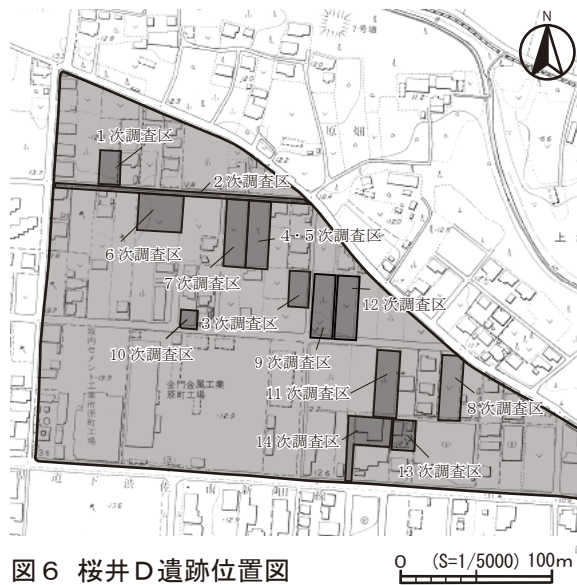


図6 桜井D遺跡位置図

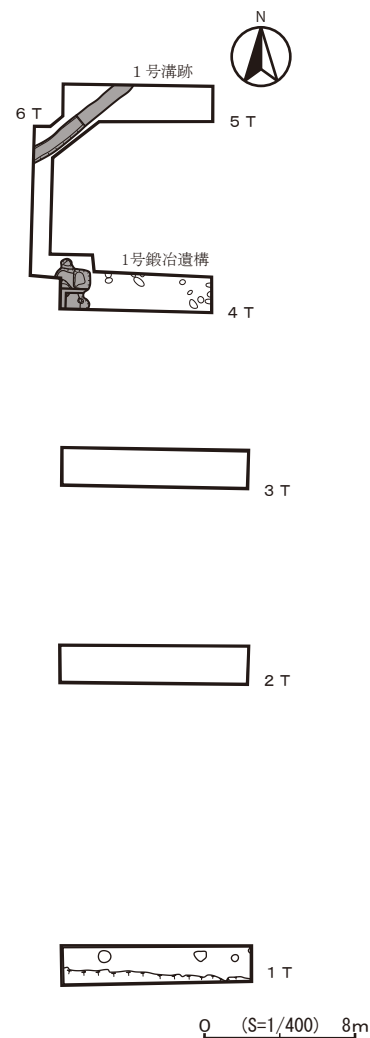


図7 トレンチ配置図

8. 調査所見 今回の調査では炉をともなう掘方の内部から鍛造剥片や粒状滓などの精錬鍛冶に関連する遺物が出土し、集落内において鉄製品を製作していた実態を明らかにした。土器の出土はなかったが9世紀後半の所産の可能性が高い。

今回の試掘調査では、掘削・破壊を受ける部分については記録作成が完了しているが、慎重工事により施工が行われることが望ましい。



写真3 調査着手前



写真4 1T 1号溝跡



写真5 2T 1号鍛冶遺構



写真6 1号鍛冶遺構 調査状況



写真7 1号鍛冶遺構 調査状況



写真8 1号鍛冶遺構 粘土塊

第3項 桜井D遺跡（8次調査）

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 所在地 南相馬市原町区上洪佐字原畑
3. 調査期間 平成24年7月19日～8月31日
4. 調査対象面積 940 m²
5. 調査面積 204 m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 1 T：調査対象地の北部に設けたトレンチである。最上層は山砂による盛土で、その下層には暗褐色土にロームブロックが混入した耕作土がある。

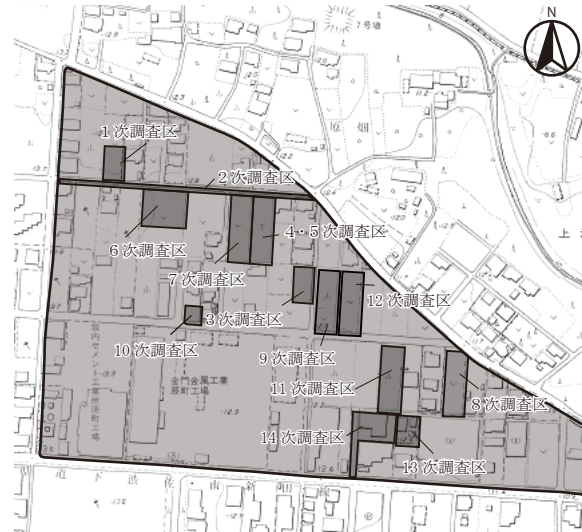


図8 桜井D遺跡位置図

0 (S=1/5000) 100m

基盤層はこの耕作土の下層にある黄色ローム層である。基盤層は現地表面から約1 mの深さにあり、この面で遺構を確認した。

確認した遺構は、調査区を斜めに横断する竪穴住居跡（S I 1）と、南北方向に走る溝跡（S D 1）である。竪穴住居跡の南辺には土坑もしくは竪穴住居と見られる遺構が重複しているため、これを3号竪穴住居跡とした。

- 2 T：1 Tの南側約8 mの地点に設定したトレンチである。遺構検出面となる基盤層確認までの堆積状況は1 Tと同様で、山砂による盛土、旧耕作土、基盤層の順で確認した。基盤層は現地表面から約1 mの地点に位置する。

基盤層上面で確認した遺構は竪穴住居跡（S I 2）と溝跡である。竪穴住居跡は北辺を中心とした範囲で、北辺の一部に焼土の散布が著しい部分があり、この部分はカマドと見られる。また北東隅には溝状の張り出しが見られ、住居の排水施設の可能性がある。溝跡は1 Tで確認された溝跡に向かっており、同一の溝であると考えられる。

- 3 T：3 Tは、調査対象地の中央やや南よりに設定したトレンチである。基盤層の上位にある堆積土は、1・2 Tとほぼ同様であるが、基盤層は現地表面から約1.1 mの深さにあり、基盤層の位置がやや深い。調査区内で確認された遺構は調査区南部にある南北方向の溝跡である。1号溝跡の延長部分と見られる。

- 4 T：調査対象地の南部に設けたトレンチである。基盤層の上位にある堆積土は他のトレンチと同様であるが、基盤層確認地点は、現地表面から約1.2 mを計測しており、全体的に1 Tから4 Tに向かって緩やかに傾斜しているものと見られる。確認された遺構は調査区中央にある溝跡である。この溝は先述した1号溝跡の延長部分と見られる。

確認調査に際しては、事業計画に合わせて拡張を行い遺構の内容・時期等の確認に努めた。調査区は試掘調査時点で確認されていた1号竪穴住居跡・2号竪穴住居跡、1号溝跡を中心に拡張を行ったが、拡張の過程で新たに2軒の竪穴住居跡が確認され（S I 4・S I 5）、3号竪穴住居は後世の攪乱の可能性が高いこと（S I 3 欠番）が判明した。

1号竪穴住居跡：本住居跡は試掘調査時の1 Tで確認した竪穴住居跡である。調査対象地の中央やや北寄りに位置し、北側には4号竪穴住居跡、南側には2号竪穴住居跡がある。本住居は、基盤層となる黄色ロームを検出面とし、現地表面から約1 mの深さで確認した。住居の規模は東西 4.05m、南北 3.85mを計り、やや東西に長い長方形の平面形を持つ。住居内の堆積土は最終的に8層に細分され、すべて自然堆積により埋没している。

床面には6基のピットが確認されたが、その内P 1～4が住居の支柱穴、P 5・6は貯蔵穴と見られる。支柱穴は直径 20cm 前後の円形を呈し、底面までの深さは 10cm 前後を計測する。また、床面には明瞭な貼床は確認されなかったが、踏み締りのためか、周囲の基盤層よりも硬化傾向にある。

カマドは北辺中央にあり、地山の削り出しと白色粘土により袖部を形成している。焼成部は浅く掘り窪められているが、煙道は削平のため失われており確認できなかった。住居内からは、土師器・須恵器などが出土した。

2号竪穴住居跡：本住居跡は、試掘調査時の2 Tで存在を確認していた竪穴住居跡である。1号竪穴住居跡の南側約 9.5mの地点に位置し、東側には1号溝跡がある。住居跡の南東コーナーは1号溝跡と接するが、直接的な重複関係は見られないことから、先後関係は不明である。住居南辺の一部が後世の掘削を受け失われている。

住居の規模は東西 4.65m、南北 4.55mを測り、ほぼ正方形の平面形を持つ。住居内の堆積土は最も多く細分された南北セクションで 20 層に細分された。いずれもレンズ状堆積を示した自然堆積である。床面は遺構検出面から約 30cm の深さで確認し、4基の柱穴と2基の土坑が確認された。柱穴は直径 15～20cm を計測する円形で、4基が 1.7mの等間隔で正方形に配置されている。柱穴底面の深さは不均一で最も浅いP 1では 24cm、最も深いP 2では 55 cmの深さで確認した。2基の土坑はP 1とP 3に沿う位置にあり、P 5は直径 60cm、P 6は直径 40cm を計測し、平面形は円形である。土坑の床面約 20cm の地点にあ

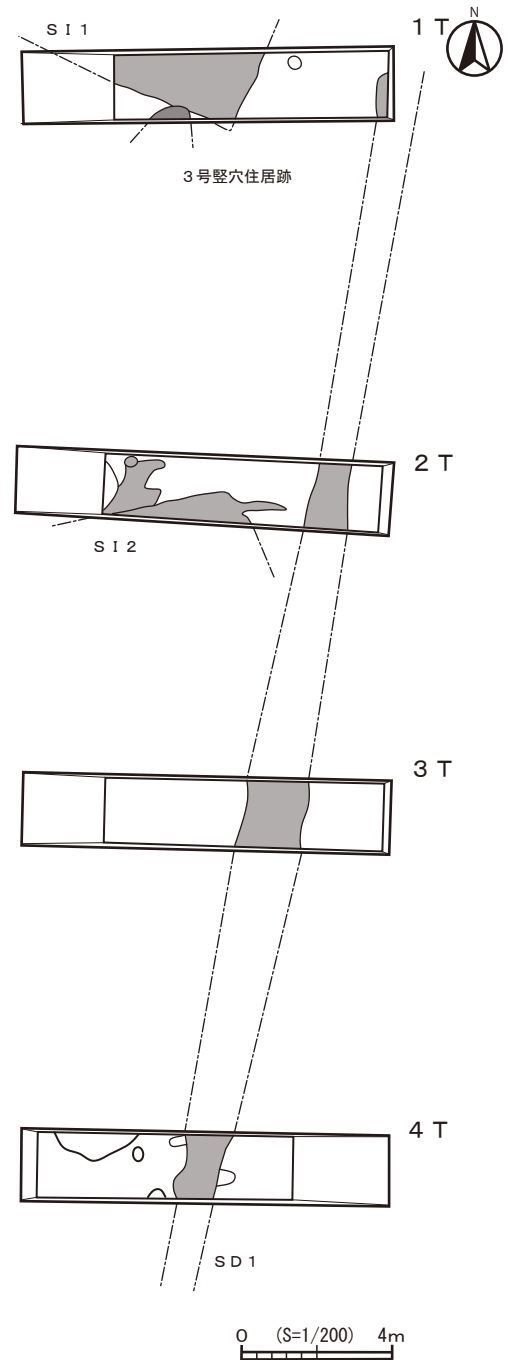


図9 トレンチ配置図

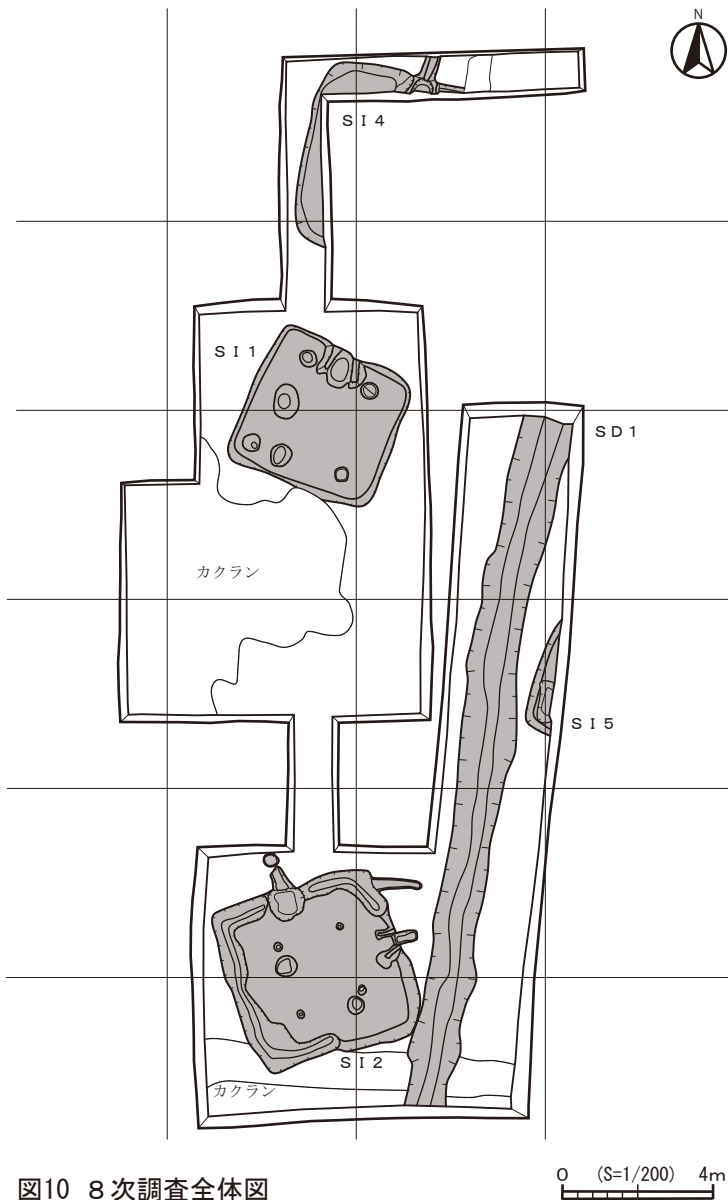


図10 8次調査全体図

り、断面形は浅い皿状を呈する。

住居の内周には壁周溝が巡る。周溝は住居北辺・西辺と南辺の一部に見られるが、東辺と南辺の一部には巡らない。また、住居北東コーナー部分には住居外へ延びる浅い溝状の掘り込みが見られるが、住居床面または壁周溝床面よりも高い位置にある。

本住居には北辺中央と東辺中央の2箇所でカマドが確認された。調査状況から見ると、北辺のカマドは煙道・焼成部の作りが丁寧でカマド袖が失われているのに対して、東辺のカマドはやや作りが粗雑な印象を受けるものの袖部が遺存していることから、北辺カマド→東辺カマドの順で作り変えが行われた可能性が高い。

北辺カマドは浅い皿状に窪んだ焼成部からやや立ち上がり、長さ90cm、幅35cmの煙道が付く。煙道の壁面は激しく酸化しており、一部では天井部分が崩落せずに遺存

していた。煙出しのピットは直径20cmを計測する。

住居内からは、土師器・須恵器・瓦・鉄製品などが出土した。

4号竪穴住居跡：1号竪穴住居跡の北方約2.5mの地点にある竪穴住居跡である。調査区内では住居の西辺と北辺の一部を確認できたが、住居の大部分は調査区外に広がっている。住居の東西規模は確定できないものの、南北規模は4.95mであることを確認した。

住居の床面は確認できていないため柱穴等の状況は不明であるが、住居北辺のほぼ中央部分にカマドが配置されている。カマドは地山の削り出しと主に黄色粘土を用いてカマド袖を形成し、燃焼部は円形に掘りくぼめられている。煙道はカマドの奥壁から一端立ち上がった位置に造られている。

住居内の堆積土は、最も状態の良い東西セクションで最大10層に細分された。いずれもレンズ状堆積を示した自然堆積土である。

本住居跡からは微細ながらも内面に黒色された土師器片や鉄滓などが出土した。

5号竪穴住居跡：調査区の東部、1号溝跡の東側で確認した。確認範囲は住居南西コーナー部分に限られるため規模は不明である。住居壁は緩やかに立ち上がる形状を示し、壁周溝等の施設は見られない。南西コーナー部分には貯蔵穴と見られる土坑がある。住居内の堆積土は8層に細分され、レンズ状の自然堆積で埋没している。住居内からは土師器・須恵器の小破片が出土した。

1号溝跡：調査対象地を斜めに横断する溝跡である。溝跡は試掘調査分を含めると約18mを確認したことになる。溝跡は上幅1.5m、下幅80cmを測り、深さは約70cmである。全体的には、北から南に向かって緩やかに傾斜しており、上位にあたる北側では砂礫層が露呈し、南側では黄色ロームが底面となっている。

堆積土は最大5層に細分される自然堆積土である。溝内からは土師器の破片が出土した。

8. 調査所見 今回の調査では、竪穴住居跡4軒と溝跡1条を確認した。このうち、2号竪穴住居跡からは9世紀第3四半期の土器と瓦が出土し、1号竪穴住居跡からは6世紀後半から7世紀初頭の土器が出土し、ある程度の時期比定が可能となっている。

それ以外の4・5号竪穴住居跡と1号溝跡からは時期を示す良好な遺物が出土せず時期特定が難しい。このような状況の中で、1号竪穴住居と5号竪穴住居跡は住居規模・方位ともに建設計画が類似しており、同時性が高く、更に1号溝跡と2・5号竪穴住居跡は同時に存在していたとは考えにくいほど近接している。むしろ1号溝跡は4号竪穴住居跡と類似した建設方位を持っているため、この両者が同時に存在していた可能性が高い。

このように見ると、本遺跡においては6世紀後半から7世紀初頭頃に集落の形成が始まり、8世紀代には一時姿を消すものの、9世紀後半頃に再び集落が形成されはじめるものと考えられる。特に9世紀後半の竪穴住居からは行方郡家の付属寺院で使用された瓦が出土しており注目される。行方郡家の付属寺院で出土する瓦が集落内の竪穴住居跡出土する背景の解明には類例の増加による検討が必要であるが、この時期は貞観地震が発生した時期と一致しており、地震被害による移転集落の可能性もあり注意したい。

今回の調査は集合住宅建設計画に伴って実施したが、今回の調査地はすでに約1mもの盛土がされており、加えて最大50cmの盛土が計画されていること、建物基礎となる柱状改良箇所については確認調査により遺構の記録が作成されたため、改めた発掘調査は要しない。

ただし、本地区においては竪穴住居跡が存在していることが確認されているため、慎重な工事施工を要するとともに、計画変更に当たっては再度保存協議を要する。

第3項 桜井D遺跡（8次調査）



写真9 調査着手前



写真10 1T 調査状況



写真11 調査状況全景



写真12 1号竪穴住居跡 調査状況



写真13 2号竪穴住居跡 調査状況

第4項 桜井D遺跡 (10次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 所在地 南相馬市原町区上渋佐字原田
3. 調査期間 平成25年2月14日
4. 調査対象面積 266 m²
5. 調査面積 12 m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 1T: 調査対象地中央に設けた調査区である。薄い表土の下には山砂による盛土があり、基盤層はこの直下にある黄色ソフトロームである。基盤層を確認するまでの過程において、遺構・遺物は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では基盤層を確認したが、保存協議を要する遺構・遺物の存在は認められなかったことから、本開発計画に際しては慎重工事による施工が望ましい。

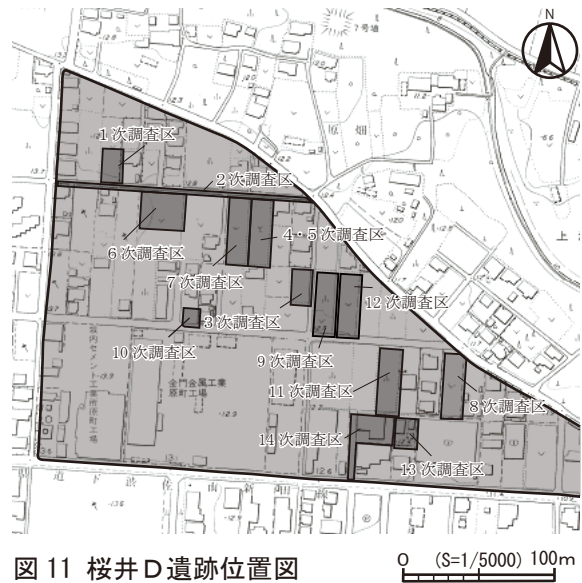


図11 桜井D遺跡位置図

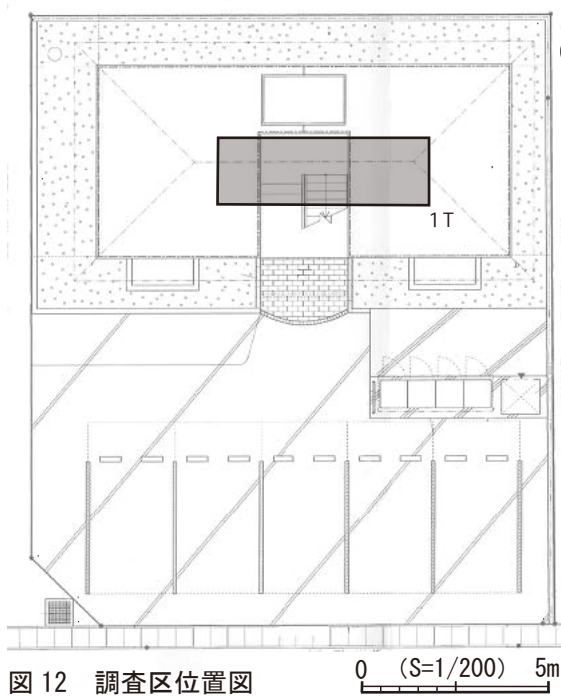


図12 調査区位置図



写真14 調査着手前



写真15 土層断面



写真16 調査状況

第5項 桜井B遺跡（5次調査）

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 所在地 南相馬市原町区上渋佐字原田
3. 調査期間 平成24年9月18日～9月21日
4. 調査対象面積 991 m²
5. 調査面積 88 m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 試掘調査では、調査区5ヶ所を設定して遺構・遺物の把握に努めた。調査対象地内では深さ20 cm～1 mの地点で基盤層を確認したが、後世の重機掘削が及んでおり、遺構・遺物を確認することはできなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかった。工事に際しては、発掘調査は必要とせず慎重な工事施工が望ましい。



図13 桜井B遺跡位置図



写真17 調査着手前



写真18 1T 調査状況



写真19 作業風景

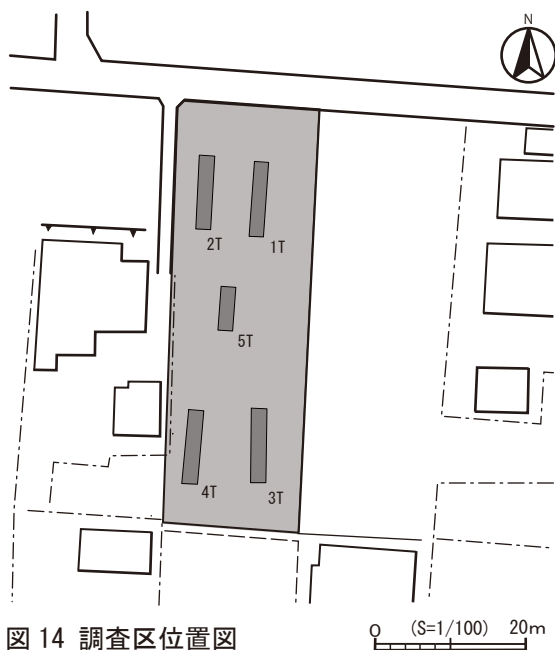


図14 調査区位置図

第6項 長野南原遺跡（2次調査）

1. 調査原因 老人福祉施設建設
2. 所在地 南相馬市原町区北長野字南原
3. 調査期間 平成24年4月23日～4月26日
4. 調査対象面積 1,227 m²
5. 調査面積 51 m²
6. 調査担当 文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 調査対象区内に2ヶ所の調査区を設定して、埋蔵文化財の把握に努めた。
1 Tでは深さ約80 cmで基盤層に到達し、その上面から竪穴住居跡1軒、土坑2基を確認した。



図15 長野南原遺跡位置図

8. 調査所見 今回の試掘調査では竪穴住居跡と土坑が確認された。これらの遺構は平成18年度に実施した1次調査の成果と同様であることから、平安時代の集落の一部を構成するものと考えられる。

埋蔵文化財の確認状況と工事計画を見ると、建物基礎掘削については遺構確認面まで到達しないこと、柱状改良予定場所は遺構密度が希薄であることから、発掘調査は必要とせず、埋蔵文化財担当職員の立会いのもとで、工事施工することが望ましい。



図16 調査区位置図



写真20 1 T 調査状況



写真21 作業風景

第7項 長野南原遺跡（3次調査）

1. 調査原因 職員宿舍建設
2. 所在地 南相馬市原町区北長野字南原
3. 調査期間 平成24年6月29日
4. 調査対象面積 289 m²
5. 調査面積 23 m²
6. 調査担当 文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 試掘調査対象地に調査区2ヶ所を設置して、埋蔵文化財の確認を行った。1 Tで少量の土師器・鉄滓が出土したが、遺構等は確認できなかった。
8. 調査所見 今回の調査地点では、遺物は出土したものの量は少なく、遺構等は確認できなかったことから、当該計画に際しては発掘調査の必要はないと判断される。しかし、開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地内であることから、慎重に工事施工することが望まれる。

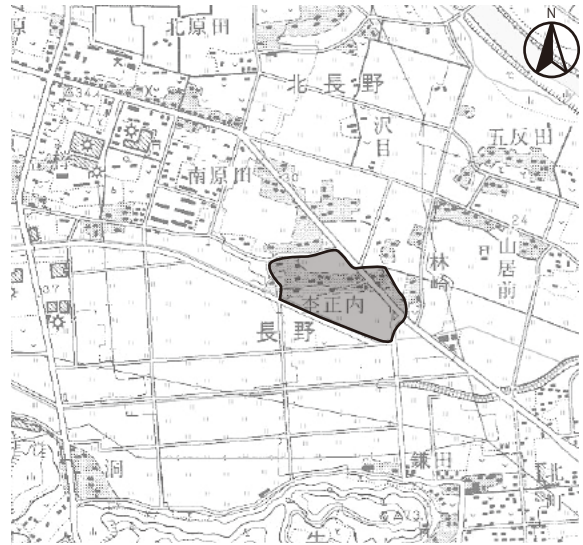


図17 長野南原遺跡位置図

0 (S=1/25000) 500m



写真22 重機掘削状況

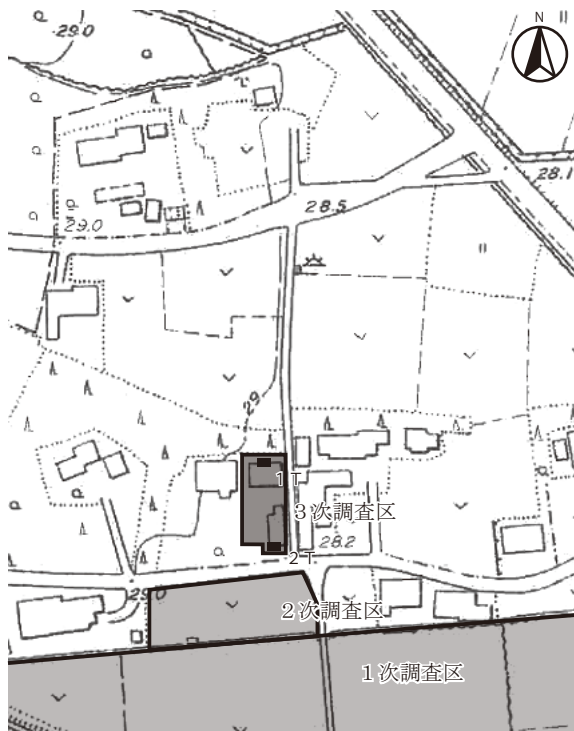


図18 調査区位置図

0 (S=1/25000) 50m



写真23 2 T 調査状況



写真24 1 T 調査状況

第8項 野馬土手（大町地内）

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 所在地 南相馬市原町区大町二丁目
3. 調査期間 平成24年8月22日
4. 調査対象面積 268 m²
5. 調査面積 20 m²
6. 調査担当 文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 試掘対象地内に20 m²の調査区1ヶ所を設定して、埋蔵文化財の確認を行った。調査では深さ約40 cmで基盤層となる黄色ロームに到達したが、遺構・遺物は確認できなかった。
8. 調査所見 試掘調査は、江戸時代に原町区市街地を取り囲むように構築された野馬土手が通過推定地の調査であったが、野馬土手の痕跡は確認できなかったため埋蔵文化財への対応は必要ない。

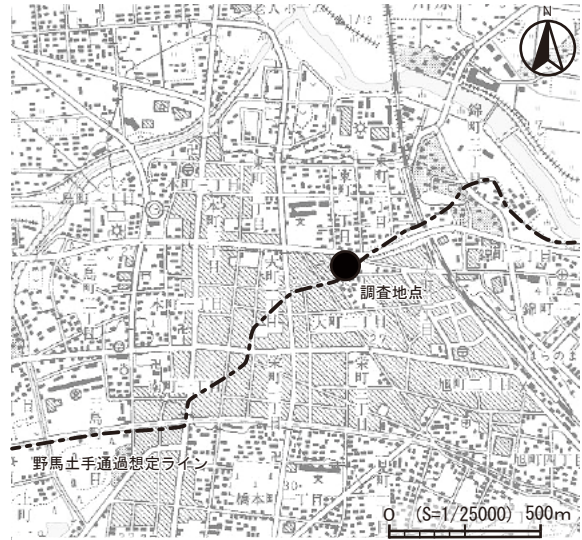


図19 野馬土手（大町地区）位置図



写真25 調査着手前



写真26 調査状況



写真27 土層断面

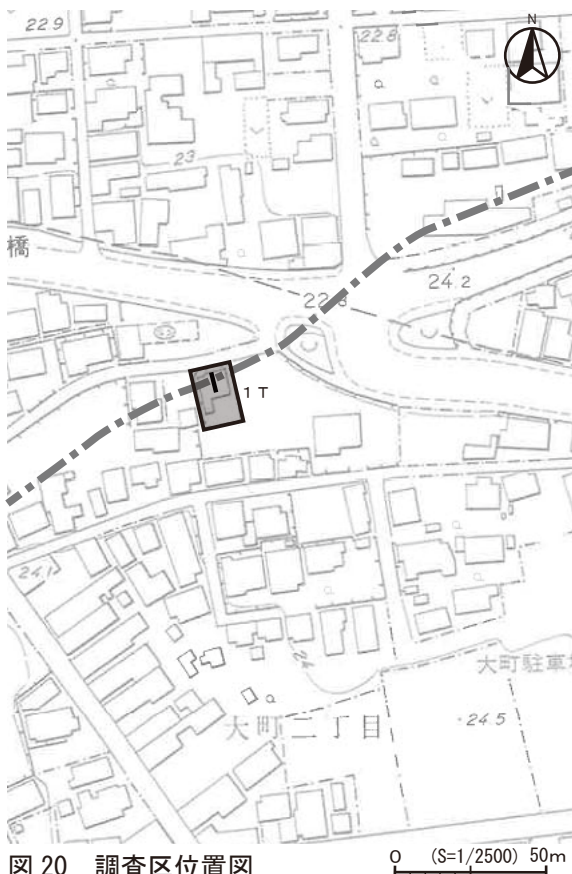


図20 調査区位置図

第9項 八郎内遺跡（2次調査）

1. 調査原因 介護老人施設建設
2. 所在地 南相馬市鹿島区横手字八郎内
3. 調査期間 平成24年11月28日～11月30日
4. 調査対象面積 7,897 m²
5. 調査面積 40 m²
6. 調査担当 文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 調査対象地に20 m²の調査区を2ヶ所に設置して埋蔵文化財の確認を行ったが、明確な遺構は確認できなかった。1 Tでは少量の土師器が出土したが、これらは沖積地埋没の過程で流入したものと考えられる。
8. 調査所見 今回の調査対象地は沖積地堆積土が厚く堆積しており、保存協議を要する埋蔵文化財は所在していないと考えられる。したがって今後の保存協議は必要としないが、工事施工にあたっては慎重に工事することが望まれる。



図21 八郎内遺跡位置図 0 (S=1/10000) 200m



写真28 調査着手前



写真29 1 T 調査状況



写真30 2 T 調査状況



図22 調査区位置図

第10項 八郎内遺跡（3次調査）

1. 調査原因 建物解体
2. 所在地 南相馬市鹿島区西町三丁目
3. 調査期間 平成24年12月6日～12月7日
4. 調査対象面積 2,800 m²
5. 調査面積 40 m²
6. 調査担当 文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 調査対象地内の2ヶ所に20 m²の調査区を設定して、埋蔵文化財の確認を行った。調査では深さ約40 cmで褐色シルトの基盤層に到達したが、遺構・遺物は確認できなかった。
8. 調査所見 今回の調査は、保存協議を要する埋蔵文化財を確認することはできなかったため、本建物解体に際しては埋蔵文化財の保存協議の必要はないと判断され、慎重に工事施工することが望まれる。



図23 八郎内遺跡位置図



写真31 調査着手前



写真32 1 T 調査状況



写真33 2 T 調査状況



図24 調査区位置図

第11項 八郎内遺跡（4次調査）

1. 調査原因 集会所施設改築
2. 所在地 南相馬市鹿島区横手字川原
3. 調査期間 平成24年12月17日～12月19日
4. 調査対象面積 800 m²
5. 調査面積 30 m²
6. 調査担当 文化財主事 佐川久
7. 調査成果 調査対象地内に 30 m²の調査区を設置し、埋蔵文化財の確認を行った。調査の結果、深さ約1mの地点まで褐色シルト質の沖積地堆積土が厚く堆積していることが確認された。
8. 調査所見 本開発地点は河川氾濫にともなう堆積土が厚く堆積しており、保存協議を要する埋蔵文化財は確認できなかった。したがって、本開発計画に際しては埋蔵文化財の保存協議は必要とせず、慎重に工事施工することが望まれる。

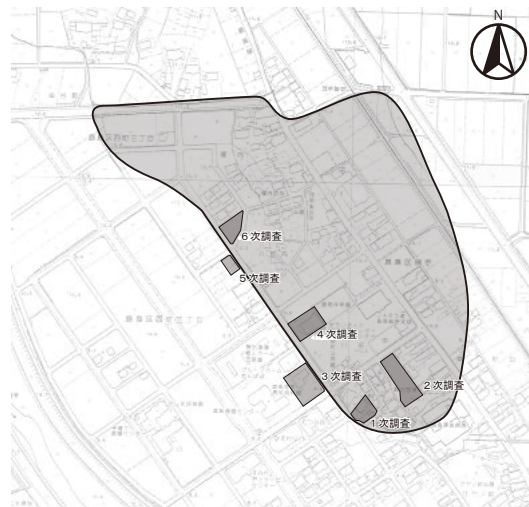


図25 八郎内遺跡位置図 0 (S=1/10000) 200m



図34 調査着手前



図35 1T 調査状況



図36 1T 土層断面



図26 調査区位置図 0 (S=1/2500) 50m

第12項 入竜田遺跡（2次調査）

1. 調査原因 工業団地造成
2. 所在地 南相馬市原町区深野字入竜田
3. 調査期間 平成25年3月18日～3月29日
4. 調査対象面積 1,000,000 m²
5. 調査面積 60 m²
6. 調査担当 文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今年度の試掘調査は、平成23年度の試掘調査の継続調査として実施した。調査区は平成23年度調査地点の西側隣接地に30 m²の調査区2ヶ所を設置した。調査区番号は、既調査区に継続して7 T・8 Tとした。

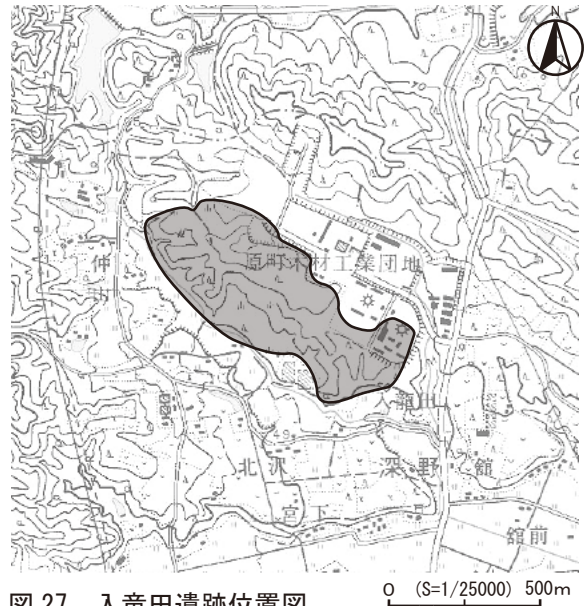


図27 入竜田遺跡位置図

試掘調査では、深さ約10 cmのところまで基盤層に到達した。検出された基盤層はソフトロームの下層にあるハードロームであることから、この付近は後世に大規模な削平を受けていることが確認された。

7 T・8 Tともに数片の土器が出土したが、これらは削平後に流入したものと考えられる。遺構は確認できなかった。



写真37 調査着手前



写真38 伐採状況



写真39 7 T 調査状況



写真40 8 T 調査状況

8. 調査所見 本年度に実施した入竜田遺跡の試掘調査は、調査の実施が可能な地点で行ったが、この付近は旧地形を改変して梅林として利用されていた。調査では削平以前に当該範囲に所在していた可能性のある遺構・遺物は検出されなかったことから、削平以前にも埋蔵文化財が所在していた可能性は低いと判断される。

したがって、工業団地造成計画に際しては、平成23年度に試掘調査を実施した範囲を含めて、埋蔵文化財への保存協議の必要性はないものと判断される。

なお、平成23年度・24年度に試掘対象範囲とした以外の部分については、分布調査・試掘調査の結果をもって改めた協議が必要である。

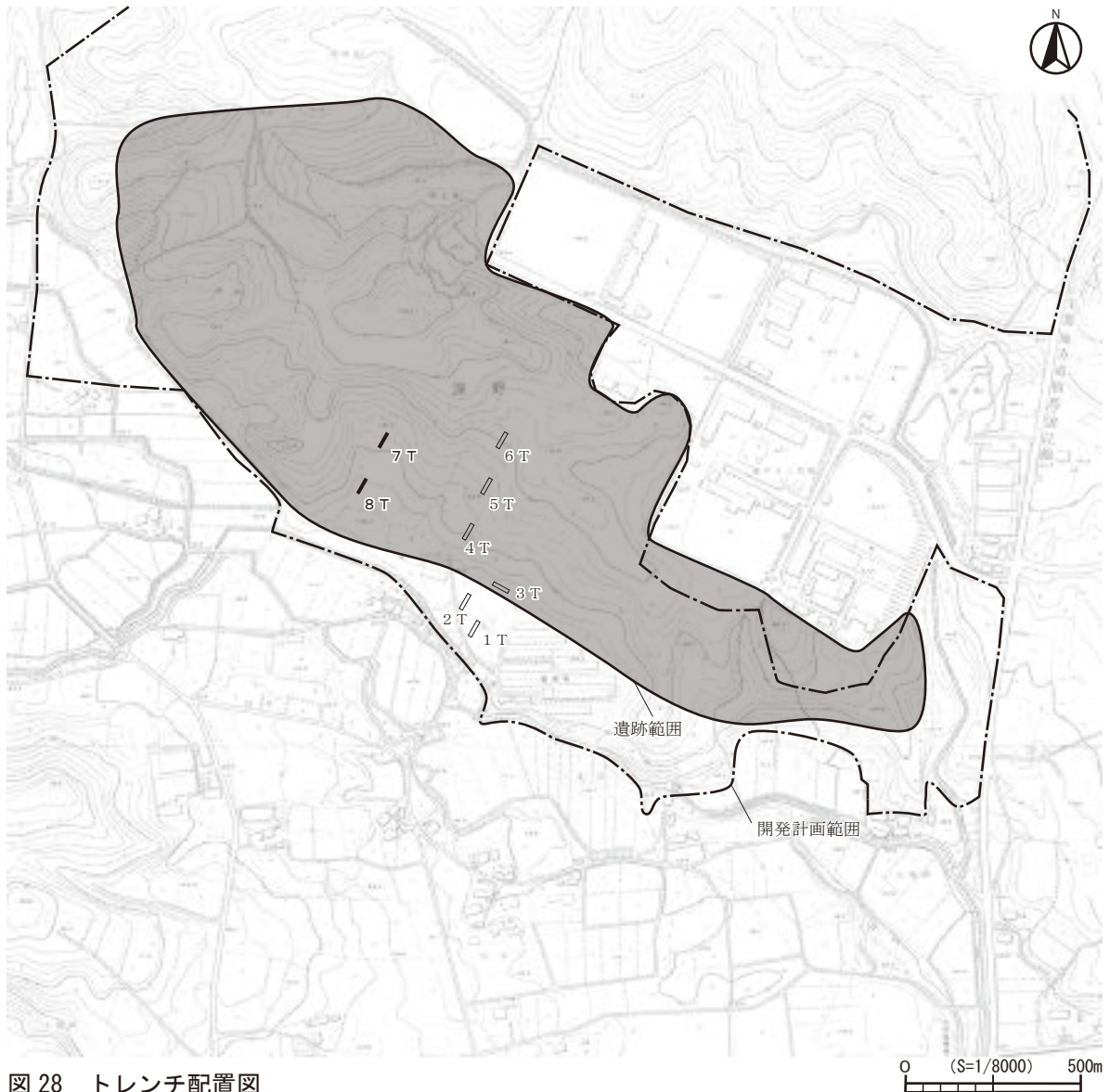


図28 トレンチ配置図

第13項 村上城跡（2次調査）

1. 調査原因 村上行政区墓地造成
2. 所在地 南相馬市小高区村上字館腰
3. 調査期間 平成25年3月14日～3月31日
4. 調査対象面積 9,315 m²
5. 調査面積 324 m²
6. 調査担当 主査 二本松文雄
7. 調査成果 調査対象地の6ヶ所に、合計

324 m²の調査区を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。調査対象地となった範囲は、旧地形を著しく改変しており、基盤層には重機の掘削痕が残っていた。基盤層は、現地表面から20 cm～30 cm程掘り進めた地点で確認した凝灰岩質泥岩である。調査では少量の陶磁器片が出土したが、城跡に関連した痕跡は確認されなかった。

8. 調査所見 試掘調査は、墓地造成予定地内で実施したが、当該範囲は後世の地形改変が著しいことが確認されたため、この範囲においては本城跡に関連する遺構が残されている可能性は低いと判断される。したがって、改めた保存協議や発掘調査の必要はない。



図29 村上城跡位置図

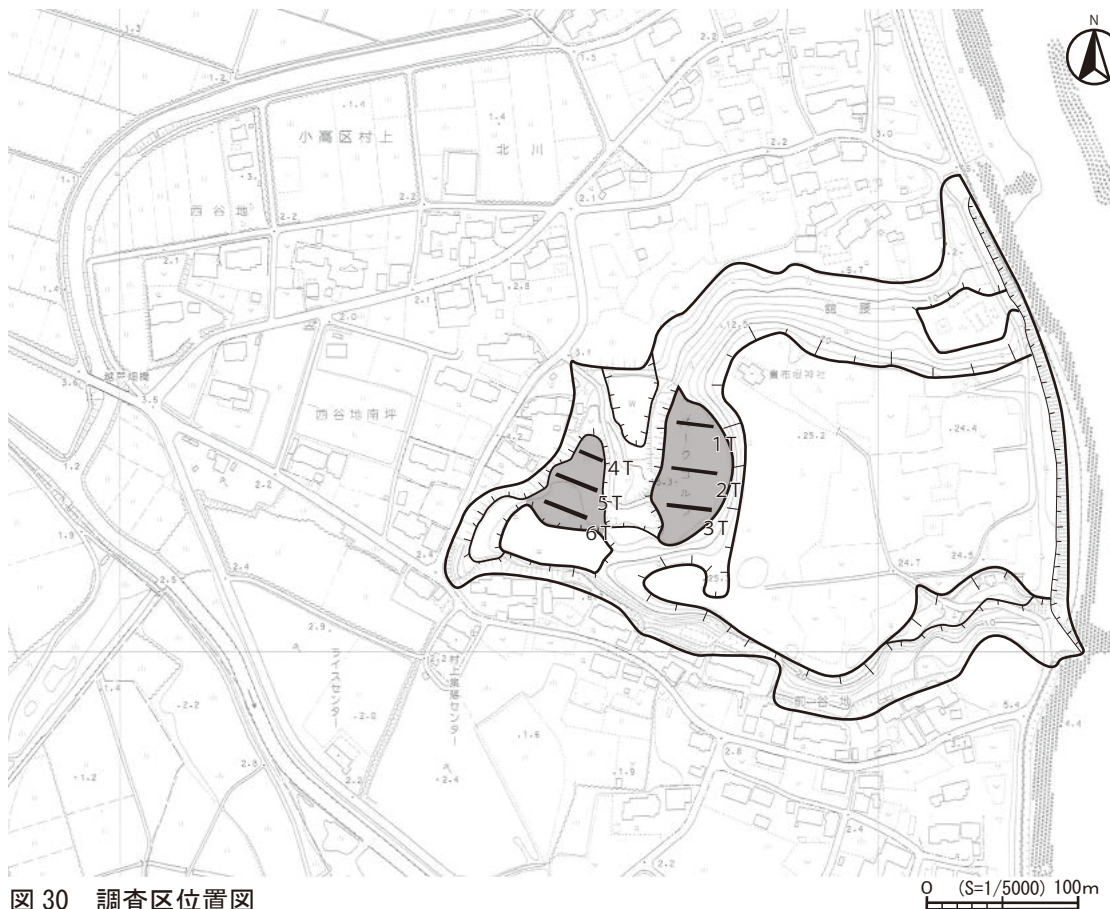


図30 調査区位置図



写真 41 村上城跡遠景



写真 42 調査区遠景



写真 43 1T 調査状況



写真 44 2T 調査状況



写真 45 4T 調査状況



写真 46 作業風景



写真 47 作業風景

報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみそうましないいせきはつかつちょうさほうこくしょ9						
書名	南相馬市内遺跡発掘調査報告書9						
副書名	平成24年度試掘調査・発掘調査報告						
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第23集						
編著者名	荒淑人						
編集機関	福島県南相馬市教育委員会文化財課						
所在地	〒975-0062 福島県南相馬市原町区本陣前一丁目70 TEL0244-24-5284						
発行年月日	西暦2015(平成27年)3月31日						
所収遺跡	所在地	コ一ド 市町村 遺跡番号	北緯		調査期間 上段：着完 下段：完	面積(m ²)	調査 原因
			東経				
桜井D遺跡 (6次調査)	南相馬原町区上渋佐字原畑	212500175	37° 31' 23"		120416	40	個人住宅
			140° 59' 39"		120417		
桜井D遺跡 (7次調査)	南相馬原町区上渋佐字原畑	212500175	37° 31' 23"		120524	92	個人住宅
			140° 59' 39"		120604		
桜井D遺跡 (8次調査)	南相馬原町区上渋佐字原畑	212500175	37° 31' 23"		120719	204	集合住宅
			140° 59' 39"		120831		
桜井D遺跡 (10次調査)	南相馬原町区上渋佐字原畑	212500175	37° 31' 23"		130214	12	集合住宅
			140° 59' 39"		130214		
桜井B遺跡 (5次調査)	南相馬原町区上渋佐字原田	212500178	37° 38' 26"		120918	88	集合住宅
			140° 59' 33"		120921		
長野南原遺跡 (2次調査)	南相馬市原町区北長野字南原	212500446	37° 39' 8"		120423	51	老人福祉 施設
			140° 56' 22"		120426		
長野南原遺跡 (3次調査)	南相馬市原町区北長野字南原	212500446	37° 39' 8"		120629	23	職員宿舎
			140° 56' 22"		120629		
野馬土手 (大町地区)	南相馬市原町区大町二丁目	212500291	37° 38' 27"		120822	20	集合住宅
			140° 57' 52"		120822		
八郎内遺跡 (2次調査)	南相馬市鹿島区横手字八郎内	212500657	37° 42' 40"		121128	40	介護老人 施設
			140° 57' 38"		121130		
八郎内遺跡 (3次調査)	南相馬市鹿島区西町三丁目	212500657	37° 42' 40"		121206	40	建物解体
			140° 57' 38"		121207		
八郎内遺跡 (4次調査)	南相馬市鹿島区横手字川原	212500657	37° 42' 40"		121217	30	集会所 施設改築
			140° 57' 38"		121219		
入竜田遺跡 (2次調査)	南相馬市原町区深野字入竜田	212500335	37° 40' 47"		130318	60	工業団地 造成
			140° 55' 45"		130329		
村上城跡 (2次調査)	南相馬市小高区字村上字館腰	212500493	37° 33' 15"		130314	324	墓地造成
			141° 1' 40"		130331		

所 収 遺 跡	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桜井D遺跡6次	集落・散布地	弥生・古墳・奈良・平安			
桜井D遺跡7次	集落・散布地	弥生・古墳・奈良・平安	鍛冶遺構・溝	土師器・鉄滓・鍛造剥片	
桜井D遺跡8次	集落・散布地	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居跡4軒・溝	土師器・須恵器・瓦	平安時代の集落
桜井D遺跡10次	集落・散布地	弥生・古墳・奈良・平安			
桜井B遺跡5次	集落・散布地	弥生・古墳・奈良・平安			
長野南原遺跡2次	集落・散布地	古墳・奈良・平安	竪穴住居跡1軒・土坑2基	土師器	平安時代の集落
長野南原遺跡3次	集落・散布地	古墳・奈良・平安		土師器・鉄滓	
野馬土手	土手	近世			
八郎内遺跡2次	散布地	古墳・奈良・平安		土師器	
八郎内遺跡3次	散布地	古墳・奈良・平安			
八郎内遺跡4次	散布地	古墳・奈良・平安			
入竜田遺跡2次	散布地	縄文・弥生		縄文土器	
村上城跡2次	城館跡	中世			

印刷 2015年 3月31日
発行 2015年 3月31日

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

南相馬市内遺跡発掘調査報告書 9

—平成 24 年度試掘調査・発掘調査報告—

編集 南相馬市教育委員会 文化財課
発行 南相馬市教育委員会
〒975 - 0062 福島県南相馬市原町区本陣前一丁目 7 0

印刷 有限会社 愛原印刷所
〒975 - 0003 福島県南相馬市原町区栄町一丁目 8
